

平塚らいてうの会ニュース

「未来を見透す長い眼」を持つとう

—新年のご挨拶にかえて

NPO平塚らいてうの会会長 米田佐代子

核兵器も原発もいらぬ、という願いをこめて2013年を迎えます。時代の風は厳しく、日本は平和憲法を投げ捨てて「戦争する国」に向かうのか、と憤らざるを得ません。かつて日本は、長く不況と時代閉塞状況にあえぐ人びとの不満が、戦争に利用された苦い経験があります。その道を繰り返してはならない。「憲法を守り抜く覚悟」を新たに、新年のご挨拶を申し上げます。

「らいてうのころざし」を現代に受け継ぐと、信州にひらいた「らいてうの家」も2016年にオープン10周年を迎えます。一昨年の『青鞥』100年に続き、昨年の国際協同組合年を機に農協・生協などの交流もすすみました。今年もNHKテレビでらいてうとらいてうの家が取り上げられる予定です。さらに「幻」の『青鞥』原本が、思いがけない絆により本会の手に入りました。まさしく「100年の女たち」からわたしたちへのメッセージです。

らいてう生誕130年でもある2016年めざして、今年もらいてうのように「遙かな未来を見透す長い眼」を持って活動しましょう。

迎

春

若い会員の発掘に努力を

真田らいてうの会会長 花岡 静枝



新しい年を迎え「らいてうの家」も8年目を迎えます。現在は雪景色の中、春を待つております。

昨年、真田らいてうの会では反省会を行いました。会発足して13年になります。地元の方として本年はもつと大勢の方がたにおいでいただくにはと、真剣な意見交換を行いました。

小林登美枝先生のホスピスでのお言葉、「地元が大切なお願ひしますね」と手を握っておっしゃいました。四季の変化に恵まれ、自然豊かなあずまや高原。その爽やかな地域の「らいてうの家」。平和を願い最後までたかたかだったらいてうさんの思いを、今こそこの地から大きく発信して会員として誇りを持って、中学生・高校生にもよびかけ若い会員の発掘に努力しなければならぬと考えました。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

「あずまや山」は「花さき山」

上田らいてうの会会長 杉山 洋子



2013年、「らいてうの家」は8年目を迎えます。ようやく全国的に認知されてきて多くの方々を迎えるようになりました。毎年丁寧に掃除をしているせいも、いまだにさわやかな木の香りを保ち、人びとを驚かせます。今年も新しく購入したり寄付を受けたりで図書室も充実し、一日中読書をしていただくこともできます。予約をしていただくと弁当も用意できます。らいてうの庭で、四季折々の山野草を楽しむこともできます。

5月から11月まで、余裕のある時間を作ってみなさまが訪れてくださるのをお待ちしている山姥です。

100年の時を経て

『青鞥』の原本を入手!

『青鞥』の原本は、らいてうの遺品の中にもそろっておらず、それは現在日本女子大学が所蔵しています。『青鞥』100年の取り組みのなかで「復刻版ではない『青鞥』の原本を」と探してきました。努力が実って、このほど東京都内の古書店から全52冊中49冊と合本6冊分を入手することができました。いつもらいてうの会を応援してくださっている、大河内昭子さんが購入資金全額を提供してくださりました。(詳細は2・4面参照)

青鞥社員の息遣いが……

100年後の「青鞥」原本入手



らいてうの会にやってきた「青鞥」原本

ています。複製盤も大きさの異なる判型をすべて同じ大きさにしてあり、印刷の色合いも違います。

今回が入手したのは、全52冊中49冊が傷みもほとんどなく、元の形と色をそのまま残した優品です。他に6冊が合本になったものがあり、その中に欠本3冊のうちの1冊が含まれているので、全部で50冊揃うことになります。しかもこれらの中には、実際に青鞥社にあったものではないかと思われる痕跡が残っているものがあり、いま調査中です。所蔵していた古書店も「もつともふさわしいところにお届けできた」と喜んでくれました。1月9日にマスクミ向け「内覧会」をする予

会の紀要5号の

「等身大の『青鞥』」

(米田佐代子)を読んでください。原本は青鞥社が運営困難な時代にらいてうの手元から失われ、今も全部そろっているところは見つかっていません。天理大学に51冊ありますが、他の図書館所蔵は部分的で、多くは合本され上下が断裁され

定です。なお、1月のNHKテレビで紹介の予定です。なお、1月のNHKテレビで紹介の予定です。

NHKテレビに「らいてう」登場!

「らいてうの家」も

NHKテレビ(Eテレ)の連続企画番組「日本人は何を考えてきたのか」シリーズに「平塚らいてう」が登場します。昨年10月、「案内人」の田中優子さん(法政大学教授)も見えて、らいてうの家と周辺の風景などを撮影、米田館長も「時代を生きたらいてう」の説明役で出演しました。放送予定は次の通りです。

日時 1月27日(日)午後10時~11時半(Eテレ)

タイトル 「女性たちは解放をめざす」平塚らいてうと市川房枝」

「市川房枝のおくりもの」シンポジウム開催

昨年11月20日、市川房枝記念会女性と政治センターが財団創立50周年を記念してシンポジウム「市川房枝のおくりもの」振り返り未来をみつめて」を開催、米田会長、折井副会長が出席しました。

基調講演の緒方貞子さんは「私を国連に押し出してくれたのは市川さん」とその国際性をたたえ、また会場発言で米田会長が、らいてうの家庭にあって記念会から「婦選会館を建てるときにはらいてうさんが協力してくれた。今度は私たちがお手伝いを」と助成金をくださったことを紹介するなど、市川さんの広い視野を知る有意義な会でした。

昔語りの会ひらく

青島喜美枝

昨年10月13日、らいてうの家で恒例となってきた「昔語りの会」が30人参加のもと開かれた。はじめは靖国の遺児として生きていらした本間陽子さん。「母はふたりの子どもを必死で育ててくれた。今は宇宙人のようになっている母を最期まで大事に看取っていきたい」という子ども時代からのお話。同じく父親に戦死された小林武夫さんは、宮城県と武石村への二回の疎開体験と、靖国の会へは絶対に戦争を起こしてはならないという思いから参加しているという。

写真を飾っての仮祝言を挙げ、翌朝広島へ発とうとしたら相手は原爆で蒸発してしまったという宮下栄さん。タイピストとして必死に働き、再婚しては彼に申し訳ないと92歳になった今も一人で生きている。87歳の山内輝子さんは古武道の修練を重ねる家族の中で薙刀道を極め、戦後教職を続けながら男性社会の中で女子武道を守っている。土屋春子さんは、市川房枝の参政権運動に感激し、丸子町に婦人有権者同盟の支部をつくり女性議員を立候補させて当選させる活動を続けてきたという。丸子支部は現在も婦選会館で開かれる会合に参加し、地道に活動を続けています。

総じて今回話された方々を育てた人の愛情の深さ・偉大さを感じ、らいてうを育てた父母・祖母を思いました。かわいい・愛しいから始まる愛情が連鎖を続け、どんな時でも奪い合うのではなく助け合う心を持つ人びとを育て、思い合う社会を築くのだと思うのでした。(上田らいてうの会)

「平塚らいてうの記録映画をつくる(上映する)会」の閉会

この会は一九九八年榊田ふきの白寿を祝う会での話から始まり、岩波ホール総支配人高野悦子の呼びかけで、日本女子大、平塚らいてうを記念する会、東京国際女性映画祭などの関係者が集まってスタートした。監督に羽田澄子を迎え、自主製作、募金五千万円で、2000年に製作発表を行った。01年秋には映画が完成、翌年3月から岩波ホールでの上映が始まった。その後全国各地で自主上映運動を行い、その剰余金二千万円を、「らいてうの家」の建設と日本女子大での平塚らいてう賞の設定に折半して寄贈した。その後「上映する会」と名称を改め、さらなる普及活動につとめた。また日本語版・英語版のビデオを製作し頒布、諸外国の関係機関にも贈呈。「青鞥」創刊百年にあたる2011年、国際的な女性史・らいてう研究などの交流も行われるようになり、日英二ヶ国語のDVDを製作配布し、映画普及の役割を終え昨年1月、全国のみなさんの協力に感謝しつつ会を閉じた。

冬ごもりの「らいてうの家」大掃除と反省会

昨年11月6、7日、恒例の大掃除と反省会が行われた。寒いなか、大河内さん、大和田葉子さんもかけつけて、賑やかにみがきあげた。反省会は例年にもまして、竹内さんの大鍋のきのこ汁と、みなさん持ちよりの自慢の品々に舌つづみをうち



喜んだ。米田館長より、元気づくりの表彰状を披露、「家」中心の観光マップづくりをしていること、生協の人たちが来てくれるといいナー、音楽会もつとやりたいね、森の講座、笹刈りは二回やり、笹が出てこないようにしたいなど、みんなでこども語り合いました。

宮城・相沢歌さんからお手紙とカンパ

昨年8月25・26日、日本母親大会に鹿島台より、二人が参加しました。その際母親運動の分科会に参加した方が、「らいてうの家」のパンフをいただき、見せていただきました。今もこうしてその意志を受け継ぎらいてうの家を維持なさっていただけるみなさんの姿に感動しました。

私は90歳になりますが、若いみなさんに励まされながら鹿島台の母連の会長をやっております。毎年日本母親大会の終了と同時に全国や県の母親大会の報告会をささやかながら呼びかけてやっております。母親大会の第一歩も、らいてうさんあればこそです。意志をついでいられるだけでなく「家」を建て、維持されていられるみなさんに敬意を表します。ほんの私の気持ちですが維持費をお送りしますので役立てていただければ幸いです。

【お知らせ】

スノーシューと信濃の歴史を訪ねる旅

かねてからご要望の多かった森の講座番外編です。冬のあずまや高原の森にスノーシューで雪中に息づく命を訪ね、高原のホテルの露天風呂から浅間山の雪景色を楽しみましょう。今回は、信濃国分寺などの史跡、伝統の木彫館なども見学する充実した企画です。ご参加をお待ちしています。申し込まれた方には詳しいご案内を差し上げます。

日時 2月17日(日)、18日(月) 1泊2日

(東京駅9時20分発のゆっくりり出発)

宿泊 あずまや高原ホテル。

参加費 15000円(予備)

(上田駅までの交通費は、各自負担)

申し込み 平塚らいてうの会

申し込み締め切り1月17日。(先着20人まで)

らいてう講座のご案内

太田治子さんと語ろう

— 愛・平和・文化・人間 —

作家、エッセイスト、美術評論など幅広く活躍されている太田さん。父は大宰治。母親の静子さんをこよなく敬愛し、歩んでこられた太田治子さんをお招きします。

日時 2013年3月9日(土) 午後1時半

会場 東京・青山 ウイメンズプラザ

参加費 1000円

「らいてうの家」大好き！ の大河内昭子さん

大河内昭子さんは、ある時はピンクのコートを羽織って講座を聞きに、ある時はエプロン持参で大掃除の床磨きに、と年に何回も見えるほどらいてうの家と、そこで出会う会員さんたちが大好きな方です。「家」自慢のカラマツのテーブルや椅子なども大河内さんのご寄付で実現、そしてこのたびは「青鞥」の原本発見の知らせに「祝 青鞥ご入来」と書かれたお祝いをお持ちくださいました。

じつはお義母さまの大河内美祿さんが日本女子大学時代、らいてうと同級生で「おはるさん」「おみねさん」と呼び合う仲だったところから、「母の供養に」とご寄付をくださったのが始まりでした（会ニュースNo.52号で紹介）。しかも郵政省勤務の大河内靖久さんと結婚されるのですが、靖久さんは大阪にお住いのころ、らいてうの姉・孝さ



(上)大河内さん「祝 青鞥御入来」のお祝いとともに
(右)11月「閉館」大掃除に奮闘中



んのご夫君で大阪市電気局長をされた平塚米次郎さんにも会った、というから世の中は広いようで狭い…。

大河内さんの少しお茶目で好奇心たっぷり、自分で納得したことは何でもやってみるというところは、らいてうさんにそっくりです。その気質は大坂船場の「いとほん」だった少女時代に養われたといえそうですが、大河内家の自由闊達な雰囲気も影響しているのかもしれない。お義母様はまことにおおらかな方だったようですが、お義父さまの又太郎さんも中学時代は手に負えないやんちゃ少年、それが一念発起して優秀な弁護士になられたのですから型にはまった秀才ではなかったわけです。そのご子息靖久さんもエリート公務員でありながら「ヨットに乗りたい」「ヘリコプターを飛ばしたい」とロマンチックな夢の持ち主でした。昭子さんは自動車の免許はもちろん、小型船舶の免許までお持ちですが、それは「彼が免許を取ってほしいといった」からだそうです。その思い出を懐かしむ昭子さんは、今でも「彼の命日よりも誕生日を祝ってあげたい」といいます。

実家と婚家と両方のご家族から愛された昭子さんが、一人暮らしになってからも日光の杉並木を守る活動や、足尾の緑を育てる事業を応援し、らいてうの家を愛してくださるのは、らいてうと同じように「無限生成」する自然のいのちを愛しているからにちがいません。そんな昭子さんからの贈り物「青鞥」原本を、ただ秘蔵するのではなくみんなの宝物として生かしたいと思っています。大河内さん ありがとう！

【事務局日誌】

- 10月9日 らいてう資料整理作業
- 10月10日 平塚らいてうの会将来プロジェクト会議 午後第3回常任理事会
- 10月13日 昔語りの会（於らいてうの家）
- 10月17日 新日本婦人の会創立50周年記念レセプションに出席
- 10月22日 昨年度県元気づくり支援の青鞥百年イベントが上小地域優良事業として表彰
- 10月24日 立松隆子さん告別式に参列
- 10月26日 第4回理事会開催
- 10月30日 らいてう資料整理作業
- 11月1日 会の将来プロジェクト会議
- 11月6、7日 「らいてうの家」大掃除
- 11月7日 今年度「らいてうの家」運営反省会
- 11月12、13日 「家」遺品収納作業
- 11月17日 第3回らいてう講座 講師米田佐代子会長（於エデユカス東京）
- 11月20日 市川房枝記念会50周年記念シンポ参加
- 11月28、29日 らいてう資料整理作業
- 11月29日 会の将来プロジェクト会議
- 12月3日 らいてうの家拡大運営委員会（於うえだ市民プラザゆう）

【訃報】

立松隆子さんが昨年10月21日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。立松さんは、1992年5月「平塚らいてうを記念する会」設立以来、事務局長として活躍してこられました。1994年9月、病気のため退任され、療養に努めてこられました。享年86歳でした。